

2021年度通期決算に係るオンライン説明会における質疑応答（2022年5月12日開催）

※オンライン説明会開催日（2022年5月12日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2021年度通期決算について

質問	回答
第4四半期（2022年1月～3月）の粗利益率（13.1%）が上振れした理由を教えてください。	円安の影響、ならびに建設工事が終盤にある国内外案件の採算改善によるものである。
資機材価格の高騰が遂行中プロジェクトの収益性に与えた影響を教えてください。	四半期毎にプロジェクト採算を見直しているが、第4四半期では通常の見直しに加えて資機材価格高騰のリスクを織り込んだ。
前期（2020年度）と比較して2021年度売上高が伸びなかった要因を教えてください。過去1年から2年間の受注高が少ないことが影響しているのか。	大型案件が相次いで完工し、残っているのはLNGカナダプロジェクトとイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトの二つになった一方で、新しい案件が少ないことが背景にある。

2. 受注・マーケット環境

質問	回答
2022年度のLNG案件を中心とする顧客の動向を教えてください。	エネルギー需要の回復やエネルギーセキュリティ政策によって、天然ガスやLNGの重要性が高まっており、LNG計画のFSやFEEDの引き合いや発注が増加している。大型LNG計画のEPC発注は、2022年後半から2023年にかけて本格化していくことが期待できる。

	<p>ゴールデンウィーク中に欧州と米国に出張した。顧客と Face to Face で面談し感じたことは、欧州では脱炭素化の道筋は変わらないが、ある欧州の顧客からは、ロシア産天然ガスから早急に転換する必要があるためイノベーションな手段でプロジェクトの納期短縮の検討要請を受けた。米国のある顧客では、計画中の LNG プロジェクトのオフテーカーが決まったことや政府からの要請もあるとのことであり、早期着工への意思が伺えた。</p>
<p>北米以外の LNG 計画の進展はどうか。</p>	<p>モザンビーク Area4 プロジェクトは、建設現場での安全性が確保されたうえで早期に FID されることを期待しているが 2023 年以降になるのではないかと。そのほか当社グループが FEED を遂行中のマレーシア FLNG 計画は 2022 年度内に FID される見込みであり、パプアニューギニアなどでの LNG 計画の進展も期待できる。</p>
<p>新規案件の契約締結時には、資機材価格高騰の影響も考慮して顧客と契約交渉しているという理解で良いか。また LNG を中心とする同業他社との競争環境に変化はあるか。</p>	<p>ご理解の通り、資機材価格高騰への対応については、契約にエスカレーション条項を入れるなど顧客と交渉を行っている LNG 分野の競争環境については、元々対応できるコントラクターが限られているなかで、近年ではさらに絞られている状況にあり、技術力を含めて差別化し易い環境になっている。</p>
<p>かつて北米案件では、現地労働者の人件費の高騰や労働者不足の影響によってスケジュールの遅れやコスト増に至ったことがあったが、現在、北米でのプロジェクト計画が進むなかで、現地での建設リスクに対する対応はどうか。</p>	<p>案件毎に契約が異なるが、ある北米案件では、現地労働者の時間単価の調整条項を入れることなどを検討し、リスクを最小限にする工夫を行っている。</p> <p>北米案件では、現地パートナーの選定が重要となる。当社は、北米の LNG 案件を遂行し経験のある労働者を豊富に抱える信頼できるパートナーと組んで遂行していく予定である。</p>
<p>現在北米では、コンテナ船が混雑し港に着岸できないなどと</p>	<p>案件毎によってどのような遂行方法をとるか今後検討していくが、ある案</p>

<p>いった課題も聞かれる。北米案件ではモジュール工法を採用するケースもあると思うが、こうした港や輸送面での心配はないか。</p>	<p>件では、一部のモジュールを米国内にある現地パートナーのヤードを活用することや、別の案件ではモジュールを使わずスティックビルドで建設していくことを検討している。</p>
<p>スケジュール短縮を求める顧客の声が多いと説明があったが、短縮するにはその分遂行リスクも高くなると思われるが、スケジュール短縮に対するリスクも顧客が負担するという認識でよいか。</p>	<p>基本的にその通りである。各国のエネルギー需要に応じて状況はまたら模様であるが、特にロシアの天然ガスへの依存度が高い国ほど、スケジュールを優先する傾向が見られる。</p>
<p>円安が業績に及ぼす影響はどのように見ているか。</p>	<p>円安が進むと売上・利益ともにプラスに影響すると試算している。あくまで目安だが、2023年3月期業績見通しの為替感応度は、1円あたり売上高で35億円、粗利益段階で4億円、経常利益段階で9億円である。</p>

### 3. 2022年度業績予想

質問	回答
<p>2021年度と比較して2022年度は売上高が大きく伸びる(6000億円)ことを想定するなかで、主要案件であるLNGカナダやイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトは、どの程度の売上高の伸びが期待できるのか。</p>	<p>引き続き、LNGカナダとイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトが売上高のなかで大きなウェイトを占める。特にイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトは、2021年度と比較し大きく売上高が伸びると見込んでいる。</p>
<p>2022年度に受注する新規受注案件の売上高は、どのように見ているのか。</p>	<p>2022年度を受注期待案件も、2022年度の売上高として一部見込んでいるが、1000億円といったレベルの額を見込んではいない。</p>
<p>販管費が前年度から増える理由を教えてください。</p>	<p>中期経営計画「BSP2025」に沿った様々な施策を進めるなかで新規事業の探索関連費用(事業開発費用など)、海外での統括拠点の整備費用および研究開発費用などの増加を見込む。2021年度のような貸倒引当金繰入額の計</p>

	上は見込んでいない。
--	------------

#### 4. その他

質問	回答
今後、LNG をはじめとする各案件が続々と FID に向けて動き始めた場合、当社グループだけの遂行体制で対応できるのか教えてほしい。	欧州がロシアから輸入してきた天然ガスをどの程度 LNG に代替するか次第と考えている。現時点でどの LNG 計画が進んでいくのか、時期の問題も含めて見えていない部分が多く、遂行体制までははっきりしたことを申し上げ難い。

以 上